

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2022年5・6・7月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第626号

かつて本財団常任理事のひとりであった松村克巳氏は、「私どもはアカデミーハウスを建てた。すでにこれが与えられているからには活かして用いる責任がある。」と述べたことがあった(二〇周年記念誌『はなしあい』)。「はなしあい」の理念や語源、場所や会議方法についての考察のなかにさりげなく書かれていて、以前ならば読み過ぎたであろう。いま、この一文を看過できないのは、私どもの財団が問われているのはまさにアカデミーハウスを活かして用いる責任であるからに他ならない。

コロナ禍によって、関西セミナーハウスの利用者は激減し、二〇二〇年一〇月からは休館を余儀なくされた。誤解を恐れずに付言すれば、その理由のすべてが新型コロナウイルスにあつたわけではない。私どもの財団においては、コロナ禍に耐えて経営を持続できる体力も衰えを見せ始めていた。苦渋の選択のなかでじつに多くの皆様に温かなお励ましをいただいたことを、この場を借りて感謝申し上げたい。

パンデミックの予測不可能な事態が推移するなかで、全世界がおなじ困難と不安とを共有した時間はすでに三年目

を迎えている。逆説のようだが、むしろそこに大きな可能性と希望とを見つけることはできないだろうか。

日本クリスチャン・アカデミーの設立は一九六一年五月一日のことであつた。すでに昨年に六〇周年を迎えていたことになる。本来ならば記念事業も計画しなければなら

なかつただろう。アカデミー運動は、戦後ドイツ社会の精神的荒廃のなかで生まれ、日本における私どもの先達がこれに呼応して産声をあげた。伝統的な社会構造が破壊され、高度経済成長のかけ声のなかで、精神的なより所の喪失が予感され始めた時代であつた。人間の精神構造まで

「私どもの責任」を考える

財団代表理事

中村 信博



との見解を示された。「相違を明確にすることは「対立」への道ではない。精神の豊かさ、互いに語り合い、他我の違いを自覚することから始まるのだろう。

「新實在論」で知られる気鋭の哲学者ガブリエル・マルクス氏はあるロングインタビューのなかで「対話は、対面でなければ成立しません。私たちの社会で分極化が進んだのは偶然ではありません。相手を見て、にお

いをかいで、触れていないからなのです。」と語っている(『わかり合えない他者と生きる』)。

福音書が報告するイエスの場合も、多くの場面で律法学者やフアリサイ派の人びとと議論を繰り返している。「永遠の命」をめぐることは、質問する側であつたり、応答する側であつたり立場の交替まで見られる。このことはイエスの運動は、議論と対話という方法によつて成立することを暗示してはいないだろうか。

イエスは、異なる考えの他者を遠ざけたりはしない。「神の国」が語られるとき、そこには「わかり合えない他者」がともに議論していたのだ。

本紙先号「巻頭言」において神保正男財団理事は、寝食を共にし、語り合い、学び合う場としての関西セミナーハウスの魅力をあげて「はなしあい」の火を灯し続けたいと訴えられた。本年四月からは、ハウスを休館状態にはお

かず、この時代にふさわしい活用の仕方を模索している。

本財団の草創期に関係者が自覚された責任をこの時代の私どもの責任として自覚し、心豊かな社会の形成に貢献したいと願っている。

(同志社女子大学特任教授)

- 論家柴崎總さん。Zoom と対面のハイブリット方式を模索しているが、機材の関係などで今年度は全面 Zoom 開講になるかも知れない。
- 「宗教対話」Ⅲは、「キリスト教と美術」を新しく取り上げる。西洋美術とキリスト教との関わりについて各作品を通して分析する。講師は山梨県立美術館学芸員の太田智子さん。Zoom の画面共有の機能を駆使して、作品の詳細を実見しながらの講座となる予定。
 - 「宗教対話」Ⅳは、これまでに引き続き柏木義円研究会との共催で、柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を実施する。
 - 「聖書を読む講座」Ⅰは、「若者と共に聖書を分かち合う」という視点で新しく開講する講座。講師は SCF(学生キリスト教友愛会)主事として、長年若者と向き合ってきた野田沢牧師。若い世代の参加者を募ると共に、若者を受け容れる教会の可能性を探る。
 - 「聖書を読む講座」Ⅱは、山口里子氏によるマルコ福音書の新しい読み方を示す講座で、今期で 5 期目になる。全面 Zoom による開講で、全国各地、さらに海外からも約 80 名の参加がある。
 - 体験プログラムとして、昨年に引き続き「礼拝の言葉を豊かに」というテーマで、話し方ワークショップを月に一度のペースで開催する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語の訓練を行う。
 - 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2022 年度も各神学校の賛助を得て、第 1 2 回プログラムを実施する。

聖書を読む講座Ⅱ	全10回	新しい聖書の学び「マルコ福音書をじっくり読む」V 講師 山口里子 (早稲田奉仕団と共催) 全面ズームにより全国向け講座	第1回 4月12日(火) 第2回 5月10日(火) 第3回 6月14日(火) 第4回 7月12日(火) 第5回 9月13日(火) 第6回 10月11日(火) 第7回 11月8日(火) 第8回 12月13日(火) 第9回 1月10日(火) 第10回 2月14日(火)
話し方ワークショップ	全10回	「礼拝の言葉を豊かに」話し方ワークショップ (ステップ・アップ講座、初心者も可) 講師・友野富美子 対面プログラム	第1回 5月17日(火) 第2回 6月21日(火) 第3回 7月19日(火) 第4回 9月20日(火) 第5回 10月18日(火) 第6回 11月15日(火) 第7回 12月20日(火) 第8回 1月17日(火) 第9回 2月21日(火) 第10回 3月21日(火)
神学生交流プログラム		第1 2 回神学生交流プログラム 校長 神田健次 (関西学院大学名誉教授)、講師 未定 開催場所は未定	2023 年 3 月に二泊三日で開催予定

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター2022年度事業計画

昨年度は、コロナウイルス感染症の広がりのため、いずれのプログラムも、発題講演者と参加者をオンラインで結ぶ Zoom 方式を主とし、これに関西セミナーハウスでも参加できるようにした。この方式は、講師と参加者が、顔と顔を合わせて親しく話すことを難しくしたが、遠隔地にいる人もプログラムに参加することを可能にした。

2022 年度は、可能な限り関西セミナーハウスの施設の特徴を生かすため、講師が関西圏の場合は、原則として関西セミナーハウスでの対面の集会を主とし、これに参加できない人は、Zoom 方式で、オンラインでも参加できるようにしたい。講師が関西圏以外の場合は、昨年度と同様 Zoom 方式を主とし、これに関西セミナーハウスでも参加できるようにする。

関西セミナーハウスの大きな特徴は、宿泊施設を有する点にある。昨年度には持てなかつた宿泊プログラムを 2022 年度には是非開催したい。

プログラムでは、今日の社会の直面する様々な課題を取り上げ、それを克服する道を探る。

- 修学院フォーラム「社会」では、ジェンダー、新資本主義、沖縄、原発などの問題を共に考える。
- 修学院フォーラム「福祉」では、医療、ケア、貧困などの問題を考える。
- 修学院フォーラム「いのち」では、気候変動やパンデミック、老いなど問題を考える。
- 開発教育セミナーにおいては、人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。
- その他、時に応じて、新しい課題に対するプログラムを追加する。

フォーラム事業			
関東フォーラム 今日の課題 Ⅰ	共同研究	「コロナ後の教会への希望」荒瀬牧彦 (日本聖書神学校教授)	2022年度 5回 Zoom にて研究会開催 7月頃、報告書をキリスト新聞社より出版予定
関東フォーラム 今日の課題 Ⅱ		「パンデミックに抗して」講師 未定	未定
関東フォーラム 宗教対話 Ⅰ	全7回	連続講座「日本キリスト教史を読む」Ⅱ (大正編 アンコール開講) 講師 戒能信生 (千代田教会牧師) 早稲田奉仕団と共催	Zoomによる全国向け講座 第1回 5月12日(木) 第2回 6月9日(木) 第3回 7月14日(木) 第4回 9月8日(木) 第5回 10月13日(木) 第6回 11月10日(木) 第7回 12月8日(木)
関東フォーラム 宗教対話 Ⅱ	全10回	連続講座「キリスト教文学に学ぶ」Ⅰ 講師・柴崎總 (文芸評論家) Zoom による全国向け講座	第1回 4月20日(水) 第2回 5月18日(水) 第3回 6月15日(水) 第4回 7月20日(水) 第5回 9月21日(水) 第6回 10月19日(水) 第7回 11月16日(水) 第8回 12月18日(水) 第9回 2月15日(水) 第10回 3月15日(水)
関東フォーラム 宗教対話 Ⅲ	全7回	連続講座「キリスト教と美術」Ⅰ 講師・太田智子 (山梨県立美術館学芸員) Zoom による全国向け講座	第1回 5月30日(月) 第2回 7月25日(月) 第3回 8月29日(月) 第4回 10月31日(月) 第5回 11月28日(月) 第6回 1月30日(月) 第7回 2月27日(月)
関東フォーラム 宗教対話 Ⅳ	全1回	柏木義円公開講演会「柏木義円の日記に見るその日常」講師未定 (柏木義円研究会との共催)	11月19日 (土)
聖書を読む講座Ⅰ	全6回	「若者と共に聖書を分かち合うとは？」Ⅰ 講師 野田沢 (SCF 主事) (早稲田奉仕団と共催) リモートによる開講	9月から全6回、月に一度、全面 Zoom 予定

フォーラム事業			
修学院フォーラム 社会	第1回	「ジェンダー正義」をめぐる エキュメンカルな議論と実践 講師 藤原佐和子 (日キリスト教協議会 (NCC) 書記)	5月21日 (土)
	第2回	日本はこれからどうなるのか? 講師 内田樹 (神戸女学院大学名誉教授)	7月2日 (土)
	第3回	今なお差別される沖縄 講師 金井創 (日本基督教団佐敷教会牧師)	8月6日 (土)
	第4回	ジェンダーとキリスト教(仮) 講師 堀江有里 (公益財団法人世界人権問題研究センター研究員)	12月3日 (土)

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

2022年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2022年度の実業計画を次の通り定める。

I 事業計画基本方針

当財団は、ウイズコロナ時代といわれる2022年度においても、以下の基本方針を掲げ、コロナ対策に万全を期して事業を推進する。

1. 財団事業の展開

- 1) 定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話(はなしあい)を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。
- 2) コロナ禍における財団事業の展開においては、①関西セミナーハウスの事業を2022年4月から2023年3月まで、コロナの感染状況を踏まえつつ事業展開の可能性を模索し、段階的な開業に向けて取り組みを行う。②アカデミー運動における事業活動は、3密対策を徹底し、研修・セミナーは集合形式とリモート形式の併用を計画し開催の実施を目指す。
- 3) 関西セミナーハウス施設の有効活用策を検討するため、施設再生プロジェクトは経営委員会に統合し、事業再開を含めた施設の具体的展開策を提案する。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 各活動センターのプログラムは、それぞれにおける収支バランスをとることを原則とする。寄付金も含めて、活動センターとしての収支バランスを目指す。
- ③ 参加者同士の対話中心のプログラム実施にあたっては、オンライン会議のメディア等を積極的に活用して、新規プログラムの開発に取り組む。
- ④ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組む。
- ⑤ 得られた成果を機関紙による広報を超え、広く社会に発信する。基幹プログラムの成果は出版物として発行などし、知の蓄積を行う。
- ⑥ キリスト教精神に基づいたものではあるが、未だに社会の共通認識に至っていない幅広い課題をプログラム化し、もってキリスト教系メディア、一般メディアの関心を高め、啓発活動を活性化させる。

(2) 関西セミナーハウス

- ① コロナ禍の状況にあって、(第1段階)2020年10月から3月関西セミナーハウス休業期 KSHの廃止も検討し、(第2段階)2021年4月から2022年3月パイロット事業期として、小グループによる研修の可能性の模索、感染防止対策の構築課題の抽出に取り組んできた。
2022年度は、4月1日より臨時休業を解除し、第3段階として関西セミナーハウス新体制構築の準備期とし、コロナ感染対策を徹底した運営、設備点検修繕の検討を行う。
そして、利用者増大の可能性を探り、次年度以降の新たな運営体制構築を模索する。
- ② アカデミー活動の安定的継続を支援するため、宿泊施設・会場を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する方策を鋭意検討する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

- ① 2022年4月から関西セミナーハウス新体制構築の準備期とし、コロナ感染対策を徹底する。
- ② 事業再開を検討する際は、一般利用者、企業等に対して施設の利用を促進し、その収益の一部を公益活動に資する方策を組み込む。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を当該施設の補修、維持、向上等及び公益活動への貢献に資する。
なお、借主及び管理組合との交渉に関しては、財団本部が責任をもって行う。

3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告する。同時に、東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページ等によって積極的な情報発信を継続する。

- 4) シュベネマン・クラウス記念集会(財団の未来を語り合う)開催
財団本部と関西セミナーハウス活動センターの共催とする。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の拡充を図る。
特に関西セミナーハウス再興のための募金活動を行う。

II 関東活動センター2022年度事業計画

2022年度の関東活動センターは、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. Covid-19感染拡大がなお続く中で、今必要とされる課題についての講座や企画に絞って事業展開をする。
2. 「今日的課題」Iとして、「コロナ後の教会の可能性」について2021年度に継続して来た共同研究の成果を書籍にして、7月頃、キリスト新聞社から刊行予定である。
3. 「宗教対話」Iとして、前年度に引き続き、連続講座「日本キリスト教史を読む 第Ⅱ期(大正編)」のアンコール開講を全面リモート(Zoom)で実施する。前回聞き逃した受講者だけでなく、リモートでの開講によって関西セミナーハウス活動センターの会員、さらに全国での受講者を募る。現在全国から約90名の受講者が与えられている。
4. 「宗教対話」IIとして、新しく連続講座「キリスト教と文学」を開講する。これは明治以降の日本の近代文学に果たしたキリスト教の影響を、文学作品によって跡付ようという試み。講師は著名な文芸評

(2 頁より続く)

修学院フォーラム 社会	第5回	エネルギーを考える第10回 講師 交渉中(2名予定)	2023年 1月 8日 (日)~9日(月,祝)
修学院フォーラム 福祉	第1回	外国人が医療を受けるまでの壁 講師 青木理恵子 (特定非営利活動法人 CHARM事務局長)	6月4日 (土)
	第2回	コロナ禍と戦禍のあいだで、ケアの倫理 を考える 講師 岡野八代 (同志社大学グローバル スタディーズ研究科教授)	7月9日 (土)
	第3回	子ども・女性・若者の「貧困」(仮) 講師 交渉中 共催 京都YWCA	2023年2月予定
	第4回	東九条子ども食堂の試みから(仮) 講師 許伯基 (在日大韓基督教会京都南 部教会牧師)	2023年3月18日(土)
修学院フォーラム いのち	第1回	世界の農村指導者と「共に生きるために」 を目指して~アジア学院50年の働き~ 講師 荒川朋子 (アジア学院校長)	4月23日 (土)
	第2回	パンデミックの時を越えて聖書が指し示 すもの(仮) 講師 月本昭男(上智大学神学部特任教授)	9月23日(金,祝) ~24日(土)
	第3回	老いの日をいかに生き支えるか(仮) 講師 交渉中	10月予定

研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー ~SDGs (持続 可能な開発目標) を自分ごとに関 共催 (公財)京都市国際交流協会	6月19日 (日)
	第2回	自分たちで「公共」をつくりなおす ~時代の曲がり角を突破する力を求めて~ 講師 松村圭一郎(岡山大学)	7月16日(土) ~17日(日)
	第3回	「難民」から世界の今を考える ~一人ひとりの物語からはじめよう 講師 小保直彦 (オックスフォード大学 国際開発学部)	10月15日 (土)
	第4回	「食べること」を世界の真ん中において、 世界のあり方を根源から見直す 講師 藤原辰史 (京都大学人文科学研 究所准教授)	10月10日 (日)
	第5回	ともに生きる社会のかたちをみつつけよう! 講師 藤井 邦洋 (INPO 法人 ともにいき る宝塚 理事)	11月12日 (土) ~13日 (日)
	第6回	気候危機から目をそらさない! ~待った なしの10年へ歩み出すときは今~ 講師 伊与田昌慶 (国際環境NGO 350. org Japan)	12月10日 (土) ~11日 (日)
シュベネマンク ラウス記念集会		財団本部と共催	10月9日(日)~ 10日(月,祝)(仮)
もみじまつり		関西セミナーハウスと共催	11月23日(水,祝)

IV 関西セミナーハウス2022年度事業計画

臨時休業中であつた関西セミナーハウスは2022年4月1日より臨時休業を解除し、新体制構築の準備期としてコロナ感染対策を徹底した運営に取り組む。

2022年度の関西セミナーハウスの事業計画は、以下の通りとする。

1. 運営方針

- 1) 関西セミナーハウスは2022年4月から2023年3月までコロナの感染状況を踏まえつつ事業展開の可能性を模索し、段階的な開業に向けて取り組みを行う。
- 2) 関西セミナーハウス施設の有効活用策を検討するため、施設再生プロジェクトは経営委員会に統合し、事業再開を含めた施設の具体的な展開策を提案する。
- 3) 要員計画は感染症の推移を注視しながら段階的に策定し、補充が必要の際は適正に行う。

4) 宿泊予約受付は利用者数の変化を見据えて、段階的に行う。

5) 会計単位は本部事務局の管理下から関西セミナーハウスに戻す。

6) 資金不足発生が予測される場合は、運用基金の取り崩しを理事会に提案する。

7) 2022年度の設備投資は、設備投資計画範囲内で優先順位を定め実行する。

2. 予算編成作業実施にあたっての留意点

- 1) 会計単位別の収支予算書に加え、関西セミナーハウスについては損益計算書を作成する。
- 2) 人的費用は、顧問、嘱託、パートタイマー及び臨時の雇用員までの全ての費用を把握し、予算に計上する。
- 3) 関西セミナーハウスは、公益目的事業、収益事業別の施設利用計画を作成する。 (以 上)

2022年度 収支予算書 (損益計算方式)

2022年4月1日~2023年3月31日まで

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基 本 財 産 運 用 益	[240]	[240]	[0]	
特 定 資 産 運 用 益	[0]	[180]	[△ 180]	
受 取 業 務 費 用	[800,000]	[730,000]	[70,000]	
受 取 寄 付 益 金 益	[60,637,423]	[23,637,000]	[37,000,423]	
雑 収	[1,600,000]	[2,500,000]	[△ 900,000]	
	[2,210]	[19,920]	[△ 17,710]	
経常収益計	63,039,873	26,887,340	36,152,533	
(2) 経常費用				
事 業 費 用	[78,159,080]	[47,759,412]	[30,399,668]	
管 理 費 用	[4,377,620]	[3,377,000]	[1,000,620]	
経常費用計	82,536,700	51,136,412	31,400,288	
当期経常増減額	△ 19,496,827	△ 24,249,072	4,752,245	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 19,496,827	△ 24,249,072	4,752,245	

関東活動センター

第11回「神学生交流プログラム」報告

校長 関西学院大学名誉教授 神田 健次さん
講師 立教大学文学部キリス 廣石 望さん
ト教学科教授

2022年3月15日(火)〜16日(水)

Zoomによるオンライン開催

第11回神学生交流プログラムが、3月15日(火)〜16日(水)にZoomを用いて、全面ネットにて開催された。主題は「教会の宣教と新約聖書学」、校長は神田健次牧師が務め、講師には廣石望牧師(立教大学文学部キリスト神学科教授)をお迎えした。

2年前に同講師を立てて開催準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の流行により延期とせざるを得なかった。2年を経て、どうにか開催したいと事務局で議論を重ね、今回は全面的にネットで開催することとした。

過去に参加を予定していた方々にも参加を促して、計18名の参加者が与えられた。その内訳は、現役の神学生(8名)、既卒で現場を奉仕している者(5名)、上智大学大学院学生(コンベンツアル聖

フランシスコ修道会、ハリスト正教会4名)、コンベンツアル聖フランシスコ修道会修道士(1名)。上智大学や修道会へは講師の廣石先生が積極的に声をかけてくださり、急遽のお誘いにもかかわらず5名が加わってくだったことで、実にバラエティーに富んだメンバーとなり感謝であった。

プログラムは神田校長による開会礼拝に始まり、オリエンテーションを行った。このプログラムはみんなで作ることを特徴としていること、できるだけ積極的な参加を求め、期間中に必要とされる役割の担い手を募った。毎回のことながら、極めてスムーズに役割の分担が進むことに驚かされる。

オリエンテーションの後は、長めに時間(1時間半)

をとって自己紹介、神学校紹介の時間を持った。これは、参加者どうしの関係を少しでも密にすることができるように願ったことである。Zoom開催であるための限界を踏まえ、自己紹介のみならず交わりの時(ブレイクアウトルーム機能)を用いての小グループ協議も当初は一度としていたが、スタッフによる事前協議を通じてメンバーを変えて2回持つように変更した。

自己紹介の後は、講演Iとして「個人史から」と題して、廣石望先生のこれまでの歩みが語られた。広島大学で佐竹明教授の薫陶を受け、その後に東大大学院の西洋古典学専攻に学び、スイスはチューリヒ大学に進まれたとの来歴。帰国の後、フェリス女学院大学時代には、インド・ケララ州国際ワークキャンプインドを通じてタリッドの問題に触られたとのことで、計9回、学生たちとインドに渡り、現地の方々と深い関係を結んでこられたことが写真と共に紹介され、学究に勤しまれるのみならず、廣石先生がお持ちの問題意識の幅広さやあたたかなお人柄にも触れることが

できた。

夕食休憩の後は、交わりの時Iの時間。5つのグループに分かれ、講師や校長、スタッフが巡回する形で1時間の話し合いが行われた。

その後に、晩祷の時間をもち、初日の公式プログラムは終了。自由参加という形で交流の時を持ち、飲み物などを各自がPC前に持ち寄り、講師も参加してくださって、ブレイクアウトルームで数人での交わりなども含めて、12時近くまで語り合った。

2日目は朝の祈りに始まり、講演IIへと移り、廣石先生が「挑発としての奇跡イエスの奇跡物語伝承をめぐる諸考察」と題して語られた。奇跡物語から3つを取り上げて、現在、世界で問題となっている事柄を想起させる形で論が展開された。極めて刺激的なお話であり、この講演の全文は報告書に掲載予定であるので、そこでじっくり味わっていたいただきたい。

昼食休憩の後、交わりの時IIを今度は4グループで開催。その後のまとめの時では、参加者から感想や意見がさまざまに述べられ、また報告書

作成の準備も行った。最後は校長によって閉会礼拝が捧げられ、2日間のプログラムの全てが終了した。

Zoom開催のためにさまざまな限界はあったが、まずは延期を経て、神学生交流プログラムを実施できたことを喜ぶたい。実に積極的にプログラムに参加してくださった廣石望先生にも深く感謝する。今回の経験を踏まえて、次回への準備を早くから進めていきたいと願っている。詳細は、いずれ完成する報告書にて確認してほしい。



2日目の朝の祈りにて

関西セミナーハウス活動センター

●2021年度 修学院フォーラム「いのち」第3回
「ペストとキリスト教
— 中世末期の死生観と終末思想 —」

講師 同志社大学神学部教授 村上 みかさん

2022年2月26日(土)
関西セミナーハウスおよびオンライン



14世紀半ばから18世紀にかけてペストがヨーロッパ全域に広がった。それに対し教会はどのように対応したかが紹介された。多くの人が、黒っぽい腫れものや高熱、激痛に苦しみ、死者が全人口の50%以上にも及んだ。その結果、社会の貧困や食糧不足がさらに深刻化した。人と物資の移動が禁止され、強制隔離も行われた。人々は、この病いを神罰と捉え、その原因を売春婦やユダヤ人に帰した。遺体が放置され、人々は、死への



恐怖に慄き、教会に救いを求めた。それに対し、教会は、災禍から逃れるためにミサに参加し、聖人を崇拜し、断食を行い、聖地巡礼を行い、慈善活動に参加し、地獄と煉獄の苦しみから逃れて天国へ行くために善行を積み、贖宥符を買う、寄付を行うように勧めた。苦しみの中でキリストと一体化する神秘主義や、聖



「ソーシャルディスタンス」という言葉がコロナ禍のもとで一般化した。本来この語は人種問題に関する社会的な調査にルーツをもち、異質

●2021年度 修学院フォーラム「社会」Ⅳ
「人種的『ソーシャルディスタンス』への挑戦
— 奥村多喜衛の事例 —」

同志社大学社会学部教授 吉田 亮さん

2022年3月12日(土)
関西セミナーハウス別館和室とオンライン

霊の働きにより直接啓示を受ける聖霊主義も広まった。そんな中から、ルターによる宗教改革が始まり、神は人間を行為によってではなく、信仰によって義とされると説いた。隣人に寄り添い、助け、それを通してキリストに仕え、試練を通して神への信頼を強くするように勧めた。これらの歴史を踏まえ、今日キ

リスト教はコロナ禍の中でどんな役割を果たすべきかが問われていると、講師は結んだ。今回は、一昨年10月の休館以来、関西セミナーハウスの会議室における初めての集会であった。会場に13名の参加者を迎え、それにオンラインの参加者20名を加え、豊かな会であった。

は多人種の社会を評価しつつ、最終的には「キリスト教の理念」の共有による「同化」を目指し、教育による差別の自然解消を期待した。それに対して後者は差別される側から、白人キリスト教への一方的同化を否定し、多人種共生社会に合致するキリスト教のあり方を提起するという、より新しいあり方を示した。時代や地域の状況に規定されつつ、その中でキリスト者として社会に対し問題提起していった歴史の一端が示され、多くの示唆と刺激が与えられた講演であった。

対面とZoomによる開催であったが、参加者からの質問にも丁寧な応答がなされ、それを通じてさらにハワイのキリスト教に対する具体的なイメージが与えられ、歴史の中に生きたキリスト者の姿を垣間見る思いであった。後半は質疑応答に時間が費やされ、十分に「はなしあい」ができなかったことが心残りであった。

なものに距離を置くこと、すなわち疎遠性や排除、偏見の原因を解明し、その解決を追究するために用いられたものであった。本講演はハワイにおける社会的距離の問題、すなわち排日差別の撤廃に取り組んだ白人進歩派プロテスタントと日系プロテスタント牧師奥村多喜衛を取り上げ、彼らの理念や実践活動を紹介し、その意義や限界を考察、検討するものであった。前者



2021年度賛助会費・寄付金納入者ご芳名 2021年4月1日～2022年3月31日(順不同・敬称略)
ご支援に感謝申し上げます。

Table with 4 columns listing names and their respective organizations. Includes categories like 財団本部, 賛助会費, and 寄付金. Organizations mentioned include 日本キリスト教団早稲田教会, 関西セミナーハウス, and 関西セミナーハウス活動センター.

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2022年度 聖書を読む講座II**

(共催:早稲田奉仕園)

「マルコ福音書をジックリと読む」
第5期

講師:山口 里子さん(聖書学者)
日時:4月~2023年2月、第2火曜
18:30~20:00

参加費:全10回8,000円(学生4,000円)
方法:Zoomによるオンライン講座

■**2022年度 宗教対話I**

(共催:早稲田奉仕園)

〈連続講座〉アンコール開講

「日本キリスト教史を読む」II(大正篇)

講師:戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

日時:5月12日~12月(8月休会)、
第2木曜14:00~16:00

参加費:全7回6,000円(学生3,000円)
方法:Zoomによるオンライン講座

■**2022年度 宗教対話II**

(共催:早稲田奉仕園)

連続講座「キリスト教文学に学ぶ」I

講師:柴崎總さん(文芸評論家)

日時:4月~2023年3月(8,12月休会)、
第3水曜14:00~16:00

参加費:全10回8,000円(学生4,000円)
方法:Zoomによるオンライン講座

■**2022年度 宗教対話III**

(共催:早稲田奉仕園)

連続講座「超入門!西洋美術史

—キリスト教を中心として—

講師:太田智子さん(山梨県立美術館学芸員)

日時:5月、7月、8月、10月、11月、

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

2023年1月、2月、最終月曜
13:00~15:00

参加費:全7回6,000円

方法:Zoomによるオンライン講座

◆**関西セミナーハウス活動センター**

修学院フォーラムは、会場(関西セミナーハウス)とオンライン(Zoom)併用開催

■**2022年度修学院フォーラム「福祉」**

第1回「外国人が医療を受けるまでの壁」

講師:青木 理恵子さん(特定非営利活動法人CHARM事務局長)

日時:6月4日(土)13:30~15:50
参加費:1,500円(学生500円)

第2回「コロナ禍と戦禍のあいだで、ケアの倫理を考える」

講師:岡野 八代さん(同志社大学グローバルスタディーズ研究科教授)

日時:7月9日(土)13:30~15:50
参加費:1,500円(学生500円)

■**2022年度修学院フォーラム「社会」**

第2回「日本はこれからどうなるのか?」

講師:内田 樹さん(神戸女学院大学名誉教授)

日時:7月2日(土)13:30~15:50
参加費:1,500円(学生500円)

第3回「今なお差別される沖縄」

講師:金井 創さん(日本キリスト教団佐敷教会牧師)

日時:8月6日(土)13:30~15:50

参加費:1,500円(学生500円)

■**2022年度開発教育セミナー**

第1回「開発教育入門セミナー~SDGs(持続可能な開発目標)をじぶんごとに」

講師:開発教育研究会

日時:6月19日(日)10:00~16:00

会場:京都市国際交流会館

参加費:1,000円

共催:京都市国際交流協会

第2回「自分たちで「公共」をつくりなおす~時代の曲がり角を突破する力を求めて~」

講師:松村 圭一郎さん(岡山大学)

日時:7月16日(土)16:00~17日(日)12:00

参加費:11,000円(泊食込、宿泊税別途)

会場:関西セミナーハウス

本紙発行と賛助会費・寄付金報告変更について

本紙は今号から暫くの間、諸事情によって季刊(三か月に一回)とさせていただきます。これまで通り、東西活動センターにおけるプログラム案内と活動報告を基本としますが、これまで以上に内容の充実と、できるだけ早期に毎月発行に復帰できるよう努力して参ります。

また、賛助会費・寄付金報告についても今号から、氏名のみの掲載とさせていただきます。ご理解を賜り、今後ともご愛読をいただきますようお願いいたします。

賛助会費・寄付金報告

2022年2月1日~3月31日

(順不同・敬称略)

◆**関東活動センター**

賛助会費

原 牧人

戒能 信生

寄付金

日本キリスト教団霊南坂教会

増田 博

日本キリスト教団早稲田教会

武藤 陽一

クリスマス寄付金

日本キリスト教団経堂緑岡教会

日本キリスト教団鹿島加治屋町教会

神学生プログラム寄付金

横田 美子

同志社大学神学部

農村伝道神学校

神田 健次

戒能 信生

関西学院大学神学部後援会

日本キリスト教団早稲田教会

◆**関西セミナーハウス活動センター 賛助会費**

今川 泰彦・喜子

近藤 恵

山本 知恵

吉中 直子

小笠原 純

寄付金(クリスマス寄付金を含む)

日本基督教団西が丘教会

日本キリスト教団錦林教会

西川 和江

日本基督教団希望ヶ丘教会

日本基督教団平安教会

柳井 一朗

村上 みか

金山 顕子

公益財団法人京都YWCA

吉田 亮

織田 雪江

柳井 一朗

日本基督教団京都教会

日本基督教団洛西教会

以上感謝をもってご報告申し上げます。